

# 本県における老年人口の状況について

— 昭和55年国勢調査結果から —

統計課課長補佐

宮本 正大

## はじめに

これからの人口動向を指して人口の高齢化は、人口動向の転換期あるいは、人口革命といわれるように、平均寿命の伸びによる高齢者の絶対数の増加と、近年における出生率の低下により若年層のウエイトが低くなることから、相対的にも老年人口が増えるという二つの局面で高齢化が進行しており、その速度は急激なものとして考えられており、人口の高齢化は避けて通ることはできない現実であり、この人口の高齢化に伴って、さまざまな諸問題が想定されるので、昭和55年国勢調査の第1次基本集計結果に基づいて、本県における高齢化に関する基礎資料として老年人口の概況についてとりまとめ若干の解説をしたものであります。

## 1. 人口の老年化の状況

### 1) 全国の

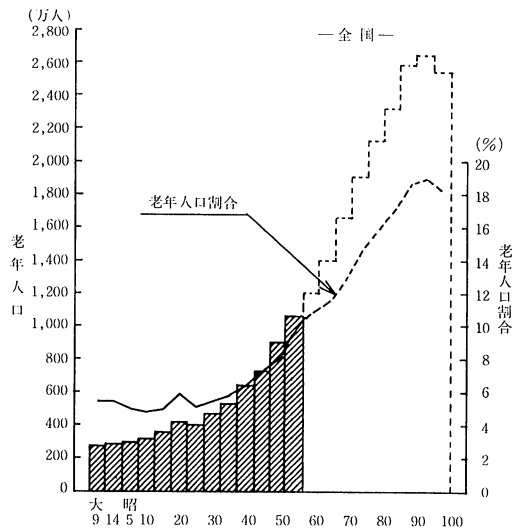
老年化状況  
先づ本県の老年化状況をのべるまえに全国の状況をみてみる必要があるので、全国の人口老年化の推移をみると、戦前の我が国の人口動態は「多産多死型」であり、第1回国勢調査の大正9年以降老年人口

表一 年齢(3区分)別人口の推移—全国(大正9年～昭和55年)

年次	人 口 (1,000人)				割 合 (%)			
	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
大正9年	55,963	20,416	32,605	2,941	100.0	36.5	58.3	5.3
14年	59,737	21,924	34,792	3,021	100.0	36.7	58.2	5.1
昭和5年	64,450	23,579	37,807	3,064	100.0	36.6	58.7	4.8
10年	69,254	25,545	40,484	3,225	100.0	36.9	58.5	4.7
15年	73,075	26,369	43,252	3,454	100.0	36.1	59.2	4.7
25年	84,115	29,786	50,168	4,155	100.0	35.4	59.6	4.9
30年	90,077	30,123	55,167	4,786	100.0	33.4	61.2	5.3
35年	94,302	28,434	60,469	5,398	100.0	30.2	64.1	5.7
40年	99,209	25,529	67,444	6,236	100.0	25.7	68.0	6.3
45年	104,665	25,153	72,119	7,393	100.0	24.0	68.9	7.1
50年	111,940	27,221	75,807	8,865	100.0	24.3	67.7	7.9
55年	116,916	27,533	78,755	10,574	100.0	23.5	67.4	9.0

の総人口に占める割合は保合ないし低下の傾向をたどり、大正9年から昭和25年までは年少人口は36%台、生産年齢人口は58%台、そして老年人口は5%前後と、あまり大きな変化はみられなかったが戦後のベビーブームによる出生増、その後昭和25年から32年にかけての急激な出生率の低下とそれ以降の低出生率、更には平均寿命の延長などにより年齢構造が大きく変化し、人口全体の中の年少人口の割合が低くなり、老年人口の割合が高くなる、いわゆる相

図一 老年人口と老年人口割合の推移

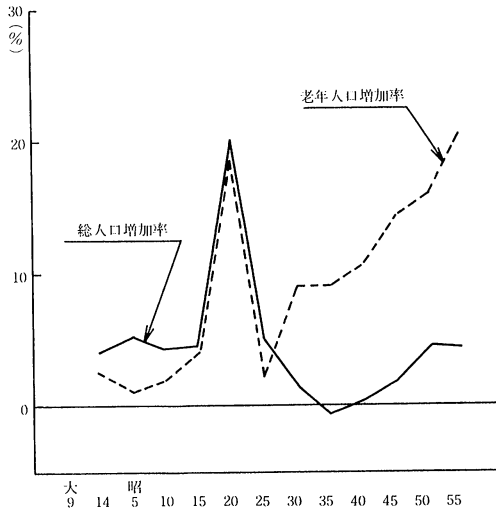


対的老年化と、そして老年人口の寿命が延びたことによって老人が多くなる絶対的老年化の相伴う現象による老年人口が増えて、総人口に占める老年人口の割合は、昭和25年の4.9%から55年には9.0%と大きく上昇し、この30年間で2.5倍増えて1,057万人と、1,000万人を超えて急速に人口の老年化が進行している。

### (2) 本県の老年人口状況

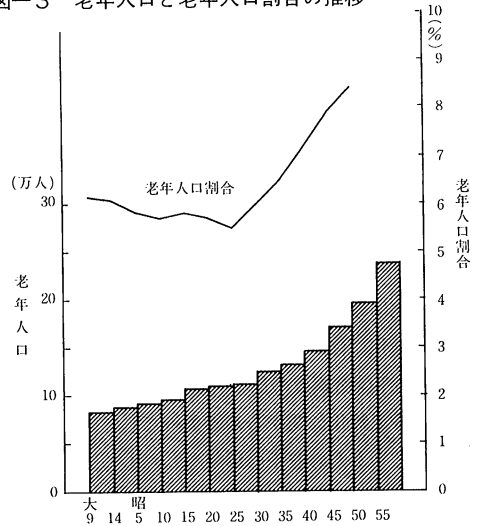
本県における老年人口をみてみると、常に全国平均より

図一 2 老年人口増加率と総人口増加率の推移



も若干高い状態で推移してきており、大正9年の83,531人から昭和15年には93,254人となり、この25年間では年平均486人の増加にすぎず、県人口に占める割合も6.2%から5.8%へと、やや縮少をさえみせた。しかし戦争前後にかけての死亡状態の改善等によって、老年人口は次第に増大の傾向をたどり、昭和25年以降5年ごとの老年人口増加率をみて一貫して総人口の増加率を上回っており、近年ま

図一 3 老年人口と老年人口割合の推移



すますその差は拡大する傾向となっており、実数においても昭和25年には112,529人、35年には134,229人となって、この10年間の年平均増加数は2,170人に増大し、総人口に占める割合も7.9%に至った。そして昭和45年から55年にかけてはなお一層増大して、年平均増加数は6,700人を超え、総人口に占める割合も9.2%に上昇して236,485人となり、増加率も20.4%と、昭和25年から55年までの30年間で

表一 2 老年人口の推移 (単位：千人，%)

年次	総人口		老年人口		
	人口数	増加率	人口数	増加率	割合
大正9年～大正14年	3,774	6.7	80	2.7	5.1
大正14年～昭和5年	4,713	7.9	43	1.4	4.8
昭和5年～10年	4,804	7.5	161	5.3	4.7
10年～15年	3,821	5.5	229	7.1	4.7
15年～25年	11,040	7.3	701	9.7	4.9
25年～30年	5,962	7.1	631	15.2	5.3
30年～35年	4,225	4.7	612	12.8	5.7
35年～40年	4,908	5.2	838	15.5	6.3
40年～45年	5,456	5.5	1,158	18.6	7.1
45年～50年	7,274	7.0	1,472	19.9	7.9
50年～55年	4,977	4.4	1,709	19.3	9.0

5年間の増減率に換算。

表一 3 老年人口の推移 (単位：千人，%)

年次	総人口	増加率	老年人口	増加率	老年人口割合
					割合
大正9年	1,350	-	83	-	6.2
14	1,409	4.3	86	2.6	6.1
昭和5年	1,487	5.5	87	1.3	5.8
10	1,549	4.2	89	2.4	5.7
15	1,620	4.6	93	4.8	5.8
20	1,944	20.0	110	18.0	5.7
25	2,039	4.9	113	2.2	5.5
30	2,064	1.2	123	9.2	6.0
35	2,047	△0.9	134	9.2	6.6
40	2,056	0.4	148	10.5	7.2
45	2,143	4.3	169	14.1	7.9
50	2,342	9.3	196	16.0	8.4
55	2,558	9.2	236	20.4	9.2

表一四 人口の年齢構造に関する主要指標の推移

年次	従属人口指数(%)			老年化指数(%)
	総数	年少人口	老年人口	
大正9年	76.7	65.8	10.9	16.6
14年	79.7	68.8	10.9	15.9
昭和5年	79.9	69.4	10.5	15.1
10年	80.8	70.4	10.4	14.7
15年	78.1	67.8	10.3	15.1
20年	78.0	67.9	10.1	14.8
25年	72.9	63.4	9.5	15.1
30年	70.2	60.1	10.1	16.9
35年	65.0	54.2	10.8	20.0
40年	54.9	43.7	11.2	25.6
45年	48.9	37.1	11.8	31.7
50年	49.6	37.1	12.5	33.8
55年	51.1	37.1	14.0	37.6

年齢構造指数の計算は次式による。

$$\text{年少(従属)人口指数} = \frac{15\text{歳未満人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$$

$$\text{老年(従属)人口指数} = \frac{65\text{歳以上人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$$

$$\text{従属人口指数(総数)} = \frac{15\text{歳未満人口} + 65\text{歳以上人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100 = \text{年少人口指数} + \text{老年人口指数}$$

$$\text{老年化指数} = \frac{65\text{歳以上人口}}{15\text{歳未満人口}} \times 100$$

2.1倍の増加となっている。

これを年齢構成指数でみてみると、生産年齢人口に対する老年人口の比率、すなわち老年人口指数では、大正9年の10.9から昭和15年の10.3へと、戦前においては緩やかな低下傾向を示していたが、戦後は昭和25年の9.5から上昇に転じ、45年では11.8となり更に55年では14.0とこの30年間で4.5ポイント、約5割近い上昇を示している。この老年人口指数14.0は生産年齢人口7人で1人の老人を扶養す

ることになるものであるが、もう1つの扶養負担度となる年少人口指数が、低い出生率を背景として低下の傾向にある本県としては、高まりつつある老人扶養負担度と、子供の負担を軽くすることによって緩和する動きとなっている。しかしこのような動向からみた場合、もう1つの指数である老齢化指数は必然的に高くなっていく。この老齢化指数は、老人と子供の数を直接に対比することによって、少産少死型の人口動態のバランスを端的に現わすものであり、昭和35年には老齢化指数は20.0であったものが、55年には37.6と急激に高まってきている。これは昭和35年には子供5人に対し老人1人の比率であったものが55年には子供5人に対し老人3人の比率に増えていることとなり、老齢化が急速に進んでいることを示している。

## 2. 老年者の配偶関係状況

本県における65歳以上の男子の有配偶者の割合、すなわち有配偶率は79.4%であるのに対し、女子の有配偶率は37.8%となり男女間で著しい差が生じている。これを更に年齢階層別にみると、65歳～69歳では、男子は88.9%、女子は54.4%となり、男子の場合は大部分が有配偶であるのに対し、女子の場合は約半数に減っている。また70歳～74歳では男子82.2%に対し女子は40.6%となり、更に75歳～79歳では、それぞれ71.8%、25.6%、80歳以上では男子52.8%、女子11.1%と、高年齢になるに従い女子の有配偶者が少なくなっている。

## 3. 高年化する労働力人口

本県における労働力人口は、その年齢構成が次第に高齢化している。労働力人口のうち15歳～29歳の階級層は、昭

表一五 老年人口の男女別有配偶率

年齢階級	男	女
総数	68.9	67.0
65～69歳	88.9	54.4
70～74歳	82.2	40.6
75～79歳	71.8	25.6
80歳以上	52.8	11.1

表一六 労働力人口の年齢区分別割合(昭和45年～55年)

男女年齢	総数			男			女		
	昭和45年	50年	55年	昭和45年	50年	55年	昭和45年	50年	55年
労働力人口	100	100	100	100	100	100	100	100	100
15～29歳	31.1	29.0	24.4	31.3	29.1	23.8	30.7	29.0	25.4
30～44	35.0	35.0	37.5	36.2	36.6	39.6	33.4	32.1	34.0
45～64	29.2	31.6	33.2	27.3	29.4	31.4	31.9	35.3	36.3
65歳以上	4.7	4.4	4.9	5.2	4.9	5.2	4.0	3.6	4.3

## ■ 調査から

和45年当時は労働力人口総数に占める割合は31.1%であったが50年には29.0%に低下し、更に55年には24.4%と急速な低下を示している。反面、45歳以上の高齢層は昭和45年の33.9%から、50年には36.0%となり、55年には38.1%となって次第にその比率が高まってきており、労働力人口の年齢構成が年々高齢化の傾向を示している。このような労働力人口の高齢化傾向は、その背景にある人口自体の高齢化傾向によって決められるものであり、県人口の高齢化の進展に伴って労働力人口もまたこれに対応して高齢化が進んでいる。

なお本県の65歳以上人口236,483人のうち、労働力人口は62,213人であり、非労働力人口は173,032人となって、その比率はそれぞれ26.3%、73.2%である。また65歳以上の労働力人口の推移としては、昭和45年当時は景気動向の影響もあって、その占める割合は労働力全体の4.7%であったが50年には4.4%と若干低下したが55年には再び上昇して4.9%となっている。

### 4. 老年人口の産業別就業者状況

65歳以上人口の産業別就業者について、その構成比でみると、昭和45年に比べ各産業ともにその割合は高くなっているが、そのなかで農業だけは低くなっている。すなわち昭和45年には64.1%であったが50年には53.0%となり更に55年には49.6%となって低下を続けている。またこれを産業内全就業者に対する65歳以上就業者の占める割合でみると、就業者数全体の増加に伴って殆どどの産業がその割合が高くなってきているそのなかで農業だけは就

業者が減少しているなかであっても、その比率は年々高まってきている。このことは本県農業の減退傾向の一端を示すものといえよう。

### 5. 老人世帯の状況

本県の65歳以上の老人のいる世帯総数は180,412世帯となっており、5年前の昭和50年に比べて26,946世帯、増加率で17.6%(全国平均14.0%)増えている。普通世帯全体に占める65歳以上の老人のいる世帯の割合は27.2%となり全国平均の割合22.5%を上回っている。これを家族類型別にその割合をみると、直系家族を中心とする比較的大規模な世帯である「その他の親族世帯」に73.1%の老人が居住しており、「高齢核家族世帯」である「夫婦のみの世帯」が10.3%、親とともに独身あるいは未婚等の子供のいる世帯である「夫婦と子供」又は「片親と子供」の世帯がそれぞれ6.0%、4.1%となっている。

また「65歳以上の親族のみの世帯」は21,428世帯で5年前に比べて6,787世帯46.4%増えている。なお1人暮らしの老人世帯は11,300世帯で5年前に比べ37.9%の増加となっている。

このような老人世帯が大幅に増加していることは今後の地域社会における大きな課題となってくるものと考えられる。

なお老人世帯の家計収入の状況は表-9のとおりであるが特に「65歳以上の親族のみの世帯」においては、「恩給年金が主な世帯」が、全体の半数以上を占める52.6%となっている。

表-7 65歳以上の産業別就業者の推移

産 業	就 業 者 数			構 成 比			65歳以上就業者/産業内全就業者		
	昭和45年	50	55	昭和45年	50	55	昭和45年	50	55
全 産 業	53,090	50,400	60,933	100.0	100.0	100.0	4.8	4.4	4.9
農 業	34,035	26,714	30,214	64.1	53.0	49.6	8.4	8.7	11.7
建 設 業	1,320	1,920	2,437	2.5	3.8	4.0	2.1	2.2	2.4
製 造 業	3,785	4,023	5,538	7.1	8.0	9.1	1.5	2.0	1.8
卸・小売業	7,740	9,958	12,650	14.6	19.8	20.8	4.9	6.7	5.6
金・保・不動産業	550	756	956	1.0	1.5	1.6	3.4	3.2	3.2
運・通・電・ガス・ 水・熱供給業	380	528	731	0.7	1.0	1.2	0.7	0.8	0.8
サ ー ビ ス 業	4,270	5,226	6,944	8.0	10.4	11.4	3.4	3.5	3.5

表一八 65歳以上の親族のいる普通世帯の家族類型(昭和45年~55年)

世帯の家族類型	世帯数			割合(%)			増減率(%、△は減少)	
	昭和45年	50年	55年	昭和45年	50年	55年	昭和45年 ~50年	昭和50年 ~55年
総数	134,337	153,466	180,412	100.0	100.0	100.0	14.2	17.6
親族世帯	127,769	145,174	168,972	95.1	94.6	93.7	13.6	16.4
核家族世帯	20,290	26,935	37,021	15.1	17.6	20.5	32.8	37.4
夫婦のみの世帯	8,864	12,823	18,669	6.6	8.4	10.3	44.7	45.6
夫婦と子供	7,371	8,696	10,893	5.5	5.7	6.0	18.0	25.3
片親と子供	4,055	5,416	7,459	3.0	3.5	4.1	33.6	37.7
その他の親族世帯	107,499	118,239	131,951	80.0	77.0	73.1	10.0	11.6
非親族世帯	171	96	140	0.1	0.1	0.1	△43.9	45.8
1人世帯	6,397	8,196	11,300	5.1	5.3	6.3	18.8	37.9

表一九 65歳以上の親族のいる世帯数(昭和50・55年)

年次	種類	普通世帯総数	65歳以上の 親族のいる世帯	(再掲) 65歳以上の 親族のみの世帯	単身世帯
	世帯数			世帯数	
50年	世帯数	583,076	153,466	14,641	8,196
	増加率				
55年	世帯数	664,457	180,412	21,428	11,300
	増加率	14.0	17.6	46.4	37.9

表一〇 家計の収入の種類別普通世帯数(昭和45・55年)

種類	年次 構成比	総数	賃金・給料が主な世帯	農業収入が主な世帯	農業収入以外の事業収入のみの世帯	家賃・地代が主な世帯	恩給・年金が主な世帯	生活保護が主な世帯	仕送りか 主な世帯	その他の収入が 主な世帯
			率	率	率	率	率	率	率	率
総数	45年	500,576	264,330	211,644	2,527	5,939	2,956	10,722	12,801	
	55年	664,457	425,784	92,899	2,913	28,356	3,060	12,563	6,908	
特掲	65歳以上の親族のいる世帯	45年	134,337	41,186	81,865	1,356	3,406	1,425	4,472	627
		55年	180,412	75,298	51,267	1,755	19,356	1,328	2,477	1,477
	65歳以上の親族のみの世帯	45年	21,428	2,267	1,667	806	11,278	937	1,800	697
		55年	21,428	2,267	1,667	806	11,278	937	1,800	697